

円山川上流氷ノ山麓採集魚類に就て

森 為 三

今夏植物分類地理学会、兵庫生物学会共催で但馬妙見及び氷ノ山採集会あり、之の際氷ノ山麓福定丹土採集魚類は次の6種である。何れも山間の溪流魚に属する。

アカザ科

- (1) *Liobagrus reini* Hilgendorf アカザ
全長 75mm, 62mm, 57mmの3標本

何れも本種の特徴とする上顎は下顎より長く胸鰭棘の後縁に鋸歯がない。

コイ科

- (2) *Moroco oxycephalus* (Bleeker) アブラハヤ
86mm, 82mm, 73mmの3標本

体は細長く体長は体高の4.7—5.1。眼は小さく眼径は頭長の4.2—4.5。鱗は稍大きく側線上の鱗数70—82。背鰭は稍後方に位置し、背鰭起点は瞳孔と尾鰭基底中央との等距離にあり、小著“熱河の淡水魚”(1934年発行)の24—26頁記載の *M. oxycephalus* と異なる所がない。従来日本産の アブラハヤの学名は *Moroco steindachneri* (Sauvage) が用いられて居るが内田恵太郎教授が朝鮮魚類誌(1939年発行)の304頁にて指摘せらるゝが如く両者は、同一種と考えるに賛成である。しかすればこの原記載は *Moroco oxycephalus* (Bleeker) は1874年であり *M. steindachneri* (Sauvage) は1883年で後になる。故に *M. steindachneri* は *M. oxycephalus* の Synonym となる。今後我が国のアブラハヤの学名は *M. oxycephalus* の学名を用うるが妥当と考える。

ドジョウ科

- (3) *Lefua echigonia* (Jordan & Snyder)

ホトケドジョウ

♀68mm, ♂66mmの2標本

体側に暗色縦帯はないが♀には尾鰭基底中央に暗色点がある。丹土辺の溝川に棲む。片山正夫氏編“円山川の魚類目録及分布表”には本種が記されていないから未記録種となる。

- (4) *Cobitis biwae* (Jordan & Snyder) シマドジョウ

♀87mm, ♂80mmの2標本

体側中央線上に黒色点状斑縦列し、この背方の小黑点斑も稍、点列型をして居る。雄の胸鰭の *Lamina Cicularis* は細長く中央部僅かに綻れて居る。

カジカ科

- (5) *Cottus pollux* (Gunther) カジカ
80mm, 59mm, 58mmの3標本

胸鰭は全鰭条先端二又して居らない。多産する。

ハゼ科

- (6) *Gobius similis* (Gill) ヨシノボリ

♂62mm, ♀60mm, ♀66mm, ♀58mmの4標本
ヨシノボリは Jordan & Hubbs が1922年“カーネイギー博物館紀要”10巻2号305頁にて指摘さるゝが如く年令・性・地方・環境等により変異に富む種類である。それで鱗数なども変異あるものとして従来新種として発表しある数種を何れもヨシノボリの Synonym とせられた。富山一郎氏が1936年日本動物学彙報7巻1号68—70頁で多くの種をヨシノボリの Synonym として居られる。しかし269頁に Fig. 22に小頭で体側に小暗点のあるものと大頭で暗横帯のあるものとの二型が図示してある。

本標本は8月11日採集で雌は既に排卵して、卵は数粒より残留して居らず。雄も精巢は小さくなくて居る。即ち繁殖を終りたるものと云える。かゝる時期の成熟せる雌雄を見ると二次性徴がよく発揮され雌雄により形態が異なり富山氏の図示の2型も Fig. 22のAは雌、Bは雄であると判定される。従来ヨシノボリの性徴に就ては繁殖期になると鰭が赤くなる位の記載よりなく詳細に記されたものがない様であるからこれらを記すことにする。

採集の雄2標本は Jordan, Snyder & Tanaka “日本魚類目録”341頁のFig. 290と全然同様故に該図は成熟せる雄と考える。即ち雄は何れも第1背鰭長く特に鰭棘糸状につき出でこれを後方に倒せば第2背鰭の基部を越えて遙かに後方に達する。第2背鰭の鰭条は前方より後方に至るに従い著しく長くなる。臀鰭の鰭条も同様後方程著しく長い。胸鰭も長大で第1背鰭基底の後端を越える。頭部大きく吻も長い(測定表参照)。体色は一樣に黒ずんだ紅色を呈し(環境により異なる)、鰓膜は暗褐色又は黄赤色で腹側は白地に淡橙色を帯ぶ。鰭の色も奇鰭は美しき紅色を呈し殊に鰭条は濃紅色である。これらの鰭の縁辺は白い。胸鰭基部に紅色の横条があり、その他の部分及び腹鰭は淡藍色を帯ぶ。頭部に於ては両眼前縁から吻端に向う暗紅色条が吻端後方で合し八形をなし、又口角に近き上顎から眼下部を経て後方に走る赤色条が著しく、その他鰓蓋部にも数ヶの赤色条が縦走して居る。

雌の2標本は何れも第1背鰭短くこれを後方に倒すも第2背鰭の基部に達しない。第2背鰭の鰭条は第4及び第5が最も長きか又は後方のものと略同長であ

(以下127頁へ)